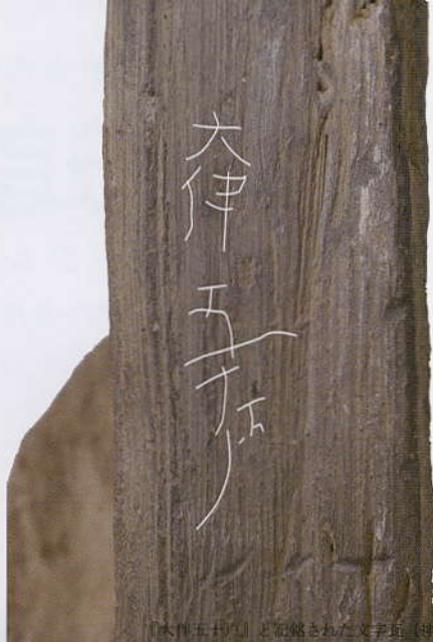


鬼瓦 (出土地不明・近世)



「大伴五平」と記銘された文字瓦 (神奈川県千代台廃寺・古代)

古瓦を追って

—前場幸治瓦コレクション—

明治大学古代学研究所
明治大学博物館企画展



五三桐文金箔軒丸瓦 (大阪府大板城・近世初頭)

2010年7月30日(金)
～9月12日(日)
〈8月10日(火)～16日(月)は休館〉

入場無料

会場：明治大学博物館 特別展示室

主催：明治大学博物館

明治大学古代学研究所

(お問い合わせ(博物館)：03-3296-4448)

時間：10:00～17:00

【開催記念講演会】 7月29日(木)

山路直充(市上市川考古博物館学芸員) 「前場瓦コレクションの概要」

前場幸治(株式会社前場工務店会長) 「古代瓦と建築」

時間：14:00～15:30 会場：明治大学博物館教室 聴講無料 定員40名

前場幸治(ぜんばゆきじ) …株式会社前場工務店会長。親子三代にわたって大工・棟梁である前場氏は、本業に関わる著書や国内屈指の大工道具のコレクションを厚木市船子の前場資料館で公開するとともに、瓦資料の収集を約40年にわたって行い、研究者としても著名です。代表的な著書として『古瓦を追って～相模国分寺、千代台廃寺考～』があります。2010年2月、前場氏から明治大学に古代の瓦を中心とする考古資料約5400点と、関連書籍1100点にのぼる膨大な資料が寄贈されました。今回は、そのコレクションの一部を展示します。



古瓦を追って

—前場幸治瓦コレクション—

2010年7月30日(金)～9月12日(日)

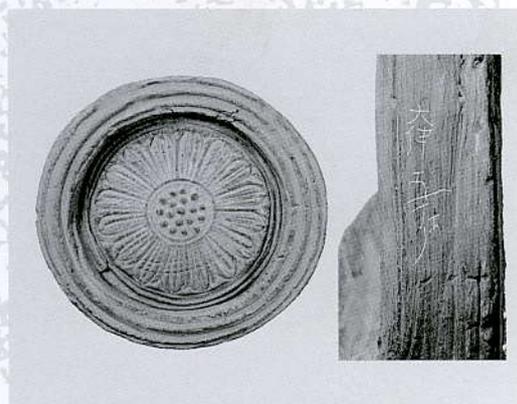
本年2月に神奈川県厚木市在住の前場幸治（ぜんば・ゆきじ）さんから明治大学に考古資料5400点、関連書籍1100冊が寄贈されました。今回の展示は、その寄贈資料のうち大半を占める古代から現代までの瓦を取り上げます。

瓦は日本家屋を覆い、伝統的な景観に欠かせない建築資材です。その源流は3000年ほど前の中国の周代にさかのぼり、古代の東アジア世界では宮殿・役所・寺院などに用いられました。日本へは、崇峻天皇元年（588）の飛鳥寺創建の時、百済から生産技術が伝わり、飛鳥寺以降、ヤマト王権・律令制国家は瓦葺き建物の導入を進めました。古代において、瓦は東アジア世界に伍するために必要な建築資材であり、瓦葺きの景観は権力と文明化の象徴だったのです。

その一方、瓦は屋根以外での利用があまりなく、屋根から落ちて土に交われば、農耕や普請の妨げとなりました。「瓦礫」という価値のないものを表す言葉も、このような状況から生まれました。

今回の展示は、前場さんが半生をかけて収集された瓦を中心に、日本の歴史のなかで瓦が果たした役割を追います。右の写真は、今回展示する古代東国の文字瓦、近世初頭の金箔瓦、近世の鬼瓦で、それぞれが日本の歴史に大きくかかわっています。

権力や文明化の象徴と瓦礫。評価の振幅が著しい瓦は、日本の歴史に何を語りかけているのでしょうか。2010年夏、明治大学博物館と明治大学古代学研究所が明らかにする新たな歴史探訪の展示です。



『大伴五十戸』と記銘された文字瓦
(神奈川県千代台廃寺・古代)



五三桐金箔軒丸瓦
(大阪府大坂城・近世初頭)



鬼瓦(出土地不明・近世)

◆開催記念講演会◆

7月29日(木) 時間：14:00～15:30

山路直充(市立市川考古博物館学芸員) 「前場瓦コレクションの概要」

前場幸治(前場工務店会長) 「古代瓦と建築」

会場：明治大学博物館教室 聴講無料・定員40名(先着順)

申し込み方法：ファックスまたははがき

住所・氏名・電話またはファックス番号を明記の上

下記までお送り下さい。

〒101-8301東京都千代田区神田駿河台1-1

ファックス：03-3296-4365

明治大学博物館瓦展講演会係 宛

締め切り：2010年7月25日(日)必着

◆ギャラリートーク◆

8月30日(月) 11:00～12:00 山路直充(市立市川考古博物館学芸員)



【会場】 明治大学博物館 特別展示室

【主催】 明治大学博物館
明治大学古代学研究所

【交通】 JR御茶ノ水駅徒歩5分
地下鉄新御茶ノ水駅徒歩8分
地下鉄神保町駅徒歩10分

【お問い合わせ】 Tel：03-3296-4448 (明治大学博物館)